

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和3年4月19日（月）～令和3年4月25日（日）〔令和3年第16週〕の感染症発生状況

第16週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3)RSウイルス感染症でした。

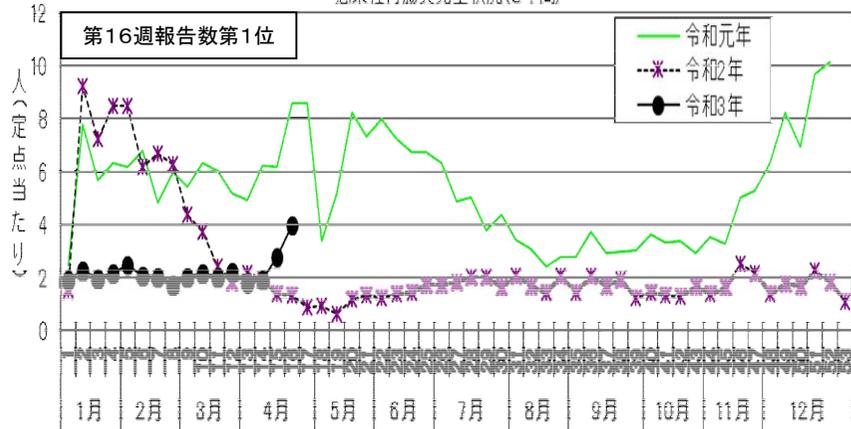
感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.94人と前週（2.75人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.89人と前週（1.00人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。

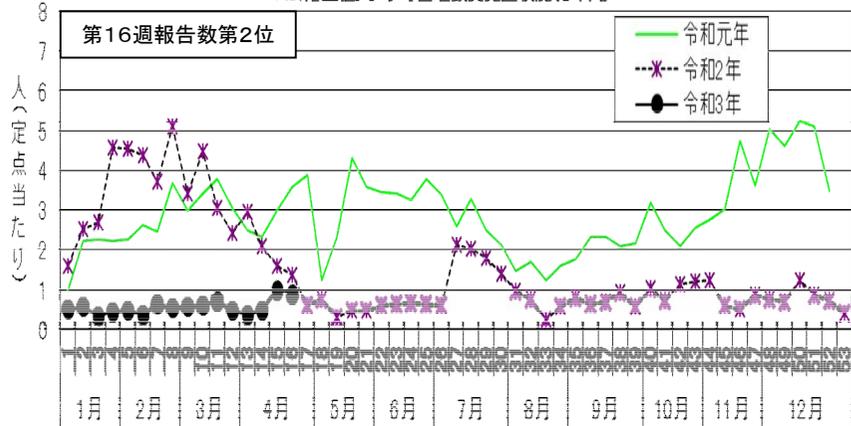
RSウイルス感染症の定点当たり患者報告数は0.69人と前週（0.53人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。



感染性胃腸炎発生状況(3年間)



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎発生状況(3年間)



RSウイルス感染症の報告数が急増しています！

RSウイルス感染症は、発熱、咳、鼻汁などを主症状とする急性呼吸器感染症で、2歳までにほぼ100%のお子さんが感染するといわれています。

昨年秋以降、九州・沖縄地方を中心に流行がみられていましたが、本州でも年明け以降、徐々に報告数が増加しています。

川崎市においては、昨年は新型コロナウイルス感染症の流行の影響を受けて、春以降は報告数が激減していましたが、今年は3月から徐々に増加し、令和3年第15週（4月12日～4月18日）の定点当たり報告数が0.53人、第16週（4月19日～4月25日）が0.69人と急増しています。

月齢の低い乳児や基礎疾患のあるお子さんは重症化しやすいため、今後の発生動向に注意しましょう。

RSウイルス感染症とは？

【潜伏期間】

2～8日（典型的には4～6日）

【感染経路】

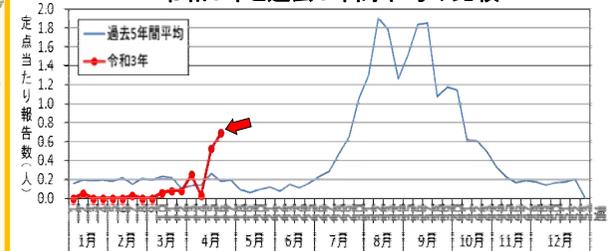
飛沫感染（患者の咳やくしゃみなど）
接触感染（ウイルスの付着した手指や物品など）

【症状及び経過】

発熱・咳・鼻汁などの風邪様症状が数日続きますが、多くは軽症ですみます。中には咳がひどくなり、喘鳴や呼吸困難などの症状が出て、細気管支炎や肺炎へと進展するお子さんもいます。



川崎市におけるRSウイルス感染症発生状況
—令和3年と過去5年間平均の比較—



RSウイルス感染症の重症化リスクの高い方

- ✓ 早産児や生後6か月以下の乳児
- ✓ 生後24か月以下で心臓や肺等に基礎疾患のある小児
- ✓ 慢性呼吸器疾患等の基礎疾患のある高齢者

